



「善力前進」ともに伸びよう 善前小 ～はずむ心 きたえる体 学ぼう創ろう「みどりの学園」～

主体的に取り組む力

校長 小田切 倫子

5月末の3分割登校を経て、6月初めの2週間は2分割での分散登校。そして、15日からはやっと全員そろっての学校生活が始まりました。特に初めの頃、子どもたちの元気がないように感じ、とても心配しました。これまで経験したことのない状況の時間が流れ、このことは子どもたちの心にどのような影を落としたことだろうと、今も案じています。やっと始まった学校ですが、「新しい生活様式」に基づく学校生活ですから、様々な制限があります。マスクを外したいことでしょうか。給食も、お話ししながら楽しく食べたいことでしょうか。「ごめんね。我慢してね。」と心の中でいつも思いながら、子どもたちと接する毎日です。

先日、こんなことがありました。朝、昇降口の前で子どもたちにあいさつをしながら、忘れてしまった児童にマスクを渡していたところ、低学年の入口前に行列ができていたのです。何かと思い行列の先を見てみると、そこにはアルコール消毒のボトルがありました。登校が重なり混雑した状況を察知し、ちゃんと並んで順番を待っていたのです。周りに、並ぶことを指示する大人はいません。黄色い帽子をかぶっていましたがランドセルカバーはしていなかったのが、2年生が多かったと思います。低学年の児童が、ちゃんと自分で考えて行動できていたことに、大変感心しました。

また、こんなこともありました。いつもは体育館に全員が集まって行う「1年生を迎える会」ですが、今年はテレビ放送を使つての実施です。歓迎の言葉やアサガオの種などのプレゼント渡し、1年生のお礼の言葉も、全てビデオ撮りしておき、朝会の時間を使ってみんなで視聴しました。でもそれだけでは終わりません。6月29日(月)から7月3日(金)の一週間をかけて「1年生ようこそビンゴ」に取り組むのです。下の図にありますとおり、「1年生に手をふる」「1年生にクイズを出す」「1年生とエアタッチをする」など、2年生以上が1年生とコミュニケーションを図ります。

ビンゴ週間の間、帰りの会でクラスごとに何人実行することができたか確認し、20人以上できていたらそのマスに色を塗ってビンゴを目指します。この取組は、児童会が中心となって計画を立てました。感染予防に注意を払いつつも、1年生と仲良くなるための方法を練り、子どもたちの知恵を結集した、なんと豊かな活動でしょう！手はつなげなくても、相手を思う気持ちがあれば、心をつなぐことができます。集まることはできなくても、仲良くなろうという気持ちがあれば、一体感が生まれます。

With コロナの時間はしばらく続くことでしょう。その様な状況でも、いや、その様な状況だからこそ子どもたちが自分で考え主体的に取り組む力を高め、子どもたちとともに、楽しく元気が出る学校生活をつくるよう、一層努力してまいります。

